

トルコギキョウの種子冷水浸漬による超低コストロゼット防止技術の開発

- 1 中核機関・研究総括者
広島県立農業技術センター 勝谷 範敏
- 2 研究期間
2004～2006 年度（3 年間）
- 3 研究目的
トルコギキョウの秋冬季出荷では、ロゼット化を防止するために苗の低温処理が必要であるが、従来法は処理コストが高い。
このため、低温処理から播種・育苗まで一貫した超低コストロゼット化防止技術を開発する。
- 4 研究内容及び実施体制
 - ① トルコギキョウ種子の冷水浸漬処理技術の開発（広島県立農業技術センター、（独）近畿中国四国農業研究センター）
種子の冷水浸漬処理により、ロゼット化防止技術の開発を行う。
 - ② 冷水浸漬処理後の播種方法の開発（三晶（株）、広島県立農業技術センター）
増粘剤を用いて流体播種法の新資材と播種方法の開発を行う。
 - ③ 育苗時のロゼット化誘発予防技術の開発（（独）近畿中国四国農業研究センター、（独）九州沖縄農業研究センター、広島県立農業技術センター）
育苗時の乾燥防止により、ロゼット誘発予防法の開発を行う。
 - ④ 種子の冷水浸漬処理によるロゼット化防止効果の実証（（独）九州沖縄農業研究センター、（独）近畿中国四国農業研究センター、広島県立農業技術センター）
種子の冷水浸漬処理の実証により、超低コストロゼット防止技術の確立を行う。
 - ⑤ 開発技術の経済性評価（広島県立農業技術センター）
- 5 目標とする成果
低温処理から播種・育苗まで一貫したロゼット化防止技術が開発される。これにより、低温処理の低コスト化、適用性品種および適用地域の拡大が図れ、トルコギキョウ生産者の経営の安定化が期待される。